

公立大学法人 大分県立看護科学大学  
平成19事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成20年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

## 1 全体評価

### 評価結果と判断理由

#### 評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

#### 判断理由

○大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目の評価については、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。  
また、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目の評価については、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、全国に先駆けたNP（ナースプラクティショナー〈高度実践看護師〉）の導入や西日本で唯一の認定看護師（訪問看護）コース新設、看護大学においては全国で初めてとなる進級試験の実施など、先進的な取組を積極的に実施していることを高く評価した。  
さらに、全国的にも例を見ないウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加など、社会貢献として大学が果たしている役割も大きいことなどから、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目については、S評価（特筆すべき進行状況にある）とした。

○その他の大項目で特筆すべき事項は「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、光熱水費に関して、それぞれの教職員がコスト意識を持って節約に取り組んだ結果、2年連続で削減（対前年度2.39%減）できたこと、「Ⅴその他業務運営に関する目標」の項目において、大学敷地内を全面禁煙とするなど健康増進に取り組んだことなどがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

#### <委員会からのコメント>

- ・大分県立看護科学大学は、地方独立行政法人化2年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、とりわけ大項目「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」では2年連続のS評価となるなど、順調に取組が進められている。今後は、特に以下のことに留意しながら、より大きな成果が得られるよう、更なる取り組みの推進を期待する。

(留意点)

- ①年度計画の策定にあたっては、数値目標を掲げるなど、目標に対する実施結果が客観的に判断できるように、より具体的な記載内容とすること。
- ②夜間講義等で過重労働とならないよう引き続き教職員の健康管理に配慮すること。
- ③他大学とのタイアップ事業や人事交流などを今後更に推進することにより、他大学の優れた点を積極的に取り入れること。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評価並びに情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

## 2 大項目評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	<b>S</b> 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	---------------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、150項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価にあたり勘案した事項」で示しているように、NP（ナースプラクティショナー）への取組や認定看護師（訪問看護）コースの開講、進級試験の実施、ウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加は、全国的にみても先進的な取組であり、実施に相当の困難が伴うと思われる事項にも関わらず、計画以上の成果を上げている。
- また、学生による授業評価を教員評価として活用することなど、計画以上の成果を達成した事項も数多く見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、S評価（特筆すべき進行状況にある）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。  
（（ ）は小項目の記号【 】はウエイト付け）
- 実習指導教員の学外研修の参加 (I-1-(1)ア(イ) a-2)  
・最新の医療・看護技術を修得するために、県外医療機関での研修を4名の教員に対して実施している。
- NP専攻の学生を募集するための教育カリキュラムの完成 (I-1-(1)イ(ア)c-1)【2】  
・「NP(高度実践看護師)に求められる能力」を充足するための共通科目と専門科目からなる教育カリキュラムを完成させるとともに、全国で初めて平成20年度のNP専攻の大学院生を募集し、3名の入学生を決定した。
- NP教育を推進するための国際会議の開催 (I-1-(1)イ(ア) c-2)  
・「日本における高度実践看護師（NP）はいかにあるべきか」および「米国及び韓国におけるNP教育の進展とNPの社会的効果の評価」をテーマに国際会議をそれぞれ開催した。
- 「訪問看護」に係る認定看護師養成コースの平成20年度開設に向けた取り組み (I-1-(1)イ(ア)d-2)【2】  
・認定看護師（訪問看護）養成コースの開設認可を西日本で初めて日本看護協会から受けた（全国で3カ所目）。
- 教員の国内各種研修会への参加 (I-1-(2)ア1)【2】  
・県外の医療施設で教員を4名を研修させるとともに、NP養成教育に備えて、米国お

- よび韓国のNP養成施設で8名を研修させた。
- 2年生に進級試験を開始し、学習の到達度を確認するとともに、試験問題の適切さの分析、フィードバック (I-1-(2)イa-1)【2】
    - ・進級試験の開始に伴って出題範囲の見直しを行い、学生が苦手とする基礎科目に出題範囲を絞ることで看護実践に重要な基礎科目を重点的に強化するとともに、項目反応理論を活用した出題の妥当性評価、出題者へのフィードバックなども行った。
  - 再試験対象学生の支援体制 (I-1-(2)イa-2)
    - ・進級試験の再試験対象学生に対して、正解率が低かった問題の解説、説明を実施した結果、再試験において全員合格とすることができた。
  - 授業評価結果を教員評価にも活用するための第三者による多面的な授業評価システムの構築 (I-1-(2)イc-2)【2】
    - ・学生による授業評価を教員評価として活用するとともに、第三者による授業評価の試行も実施した。
  - 高齢者の健康増進プロジェクトの推進 (I-2-(1)アa)
    - ・介護予防運動「お元気しゃんしゃん体操」の県内各地への普及に努めた。
  - 産官学共同研究のシーズを提案するためのパンフレット作成 (I-2-(2)アc)【2】
    - ・教員の研究情報を掲載したパンフレットを作成し、関連機関や企業に配布するとともに、看護機材等の開発研究を推進した。
  - 認定看護師(訪問看護)の教育の平成20年度開講準備 (I-3-(1)a)【2】
    - ・西日本で初めて(国内で3か所目)認定看護師(訪問看護)コース開講が認可されたことに伴い、カリキュラムの構築、施設・備品等の整備などを行った。
  - 認定看護師(訪問看護)のコース開設のためのカリキュラムの作成及び認可申請 (I-3-(1)g-3)【2】
  - ONPプロジェクトを実現するための国際的ネットワークの連携強化 (I-3-(2)a)【2】
    - ・韓国やアメリカなどから講師を招聘しNP国際会議を2回開催するとともに、招聘した講師が在職する大学と教員の交流を実施し、NP教育の推進のためのネットワークを拡大した。。
  - ウズベキスタン看護教育改善プロジェクトへの参加 (I-3-(2)b-1)
    - ・教員12名をウズベキスタンに派遣し、現地においてセミナーを開催するなど、看護指導者教育を支援した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	103 (5)			95	8(5)
研究	22 (1)			20	2(1)
社会貢献	25 (3)			21	4(3)
合計	150 (9)			136	14(9)
ウエイト考慮 後の合計	159			136	23

( ) はウエイト付けした項目数

※小項目150項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 「まだ制度化されていないNPを全国に先駆けて導入しており、しかも私学ではなく公立でというのは特記すべき事項である。」
- 「西日本で初めて認定看護師コースを開設しており、しかも現状の教員枠の中で実施していることは特記すべき事項である。」
- 「看護大学では全国で初めてとなる進級試験の導入については、積極的に評価してよいと思われる。」
- 「進級試験の実施における再試験対象学生の支援体制については、十分な大学側の支援により全学生が再試験に合格していることに加え、進級試験制度そのものについても、人命を預かる医療教育におけるその重要性を全国の看護大学に意識づける契機となり得たことから、委員会としては大学の自己評価Ⅲを上回るⅣの評価とした。」
- 「各教員の研究等をホームページに掲載する場合は、分かりやすいページに掲載するよう配慮することが望ましい。」

## Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、18項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

#### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
運営体制	7			7	
人事の適正化	11(2)			11(2)	
合計	18(2)			18(2)	
ウエイト考慮 後の合計	20			20	

( ) はウエイト付けした項目数

※小項目20項目の全てがⅢの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

### (3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 「夜間講義等がある場合は、教職員にとって過重労働になりかねないので、引き続き教職員の体調管理に配慮することが望ましい。」

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、23項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価にあたり勘案した事項」に示したように、教職員への周知徹底により光熱費を削減したことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 他の各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目
- 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。  
（（ ）は小項目の記号【 】はウエイト付け）
- 光熱水費等の削減対策を定め全学的に周知徹底 (Ⅲ-1 e-1)【2】
    - ・平成18年度の削減実績を踏まえ、光熱水費等の管理的経費について個別に削減対策を定め、積極的な取組を教職員に周知徹底した。また、電気、水道及びガス料金については、月毎に削減状況を学内ウェブに掲載した。
  - 光熱水費等の前年度比2%減を目安に経費節減 (Ⅲ-1 e-2)【2】
    - ・昨年は、例年にない猛暑であったが、各職員へコスト削減意識を徹底させたことにより、最終的には前年度比で2.39%の経費削減となった。



【小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	13(4)			11(2)	2(2)
外部資金等の 獲得	5			5	
資産の適正管 理・有効活用	5			5	
合 計	23(4)			21(2)	2(2)
ウエイト考慮 後の合計	27			23	4

( ) はウエイト付けした項目数

※小項目23項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

光熱水費については、単価の上昇等もありコスト削減が困難な面もあると思われるが、引き続き、更なる削減に向けて積極的な取り組みを進めること。

IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、16項目が全てⅢの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

特筆すべき小項目や遅れている小項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	3			3	
情報公開	13			13	
合計	16			16	

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目16項目の全てがⅢの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○「ウズベキスタンにおける看護教育支援は、非常に高く評価できる取組であるので、大学のピーアールの機会と捉え、積極的な情報発信をしていくことが望ましい。」

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、15項目全てがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○各項目の中に「十分に実施できていない」若しくは「実施していない」項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

※特筆すべき項目  
 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は次のとおりであった。  
 ○全学的な健康増進に関する各種取組の企画・実施 (V-2C)  
 ・「大学敷地内全面禁煙の決定や禁煙講習会の実施など、全学的な健康増進に取り組むとともに、学生が寄りつきやすい場所へ保健室の移転、改修を行った。」

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	1			1	
安全管理	11			10	1
モラル・人権 啓発推進	3			3	
合計	15			14	1

ウエイト付けした項目はなし。

※小項目15項目の全てがⅢ又はⅣの評価であるため、小項目評価の集計では、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

特になし。